

2018年度  
第1回 日本教育保健学会フォーラム の案内

日 時：2018年10月13日（土）13:30～16:00  
場 所：日本体育大学 世田谷キャンパス 教育・研究棟5階（大会議室）  
内 容：学校医がみた子どものからだと心～教育の課題を探る～  
岩田祥吾（南寿堂医院・院長）  
参加費：無料

岩田祥吾ほか編『学校医は学校へ行こう！』（医歯薬出版株式会社）より



はじめに

郷愁

子どもたちが、1日の約3分の1もの時間を過ごす学校とは、どういうところなのでしょう。私は学校医として、またPTA役員や保護者として学校へ行くうちに、学校の子供たちと子どもの頃の自分の姿が重なって見えてくるようになりました。辛かった思い出もありますが、楽しかったことの方が多く、学校には、まるでピーターパンたちが住むネバーランドのような、不思議で心地よい郷愁を覚えます。

誠意と思いやり

広辞苑で「学校」を引くと、「一定の教育目的の下に、一定の場所において、組織的計画的に教師が児童・生徒・学生に教育を施す施設」とあります。子どもたちに欠かせない知・徳・体の教育の場であることは間違いありません。また子どもたちにとっての学校は「わが城」だと思います。ですから大人が学校へ行く場合、子どもたちから歓迎（信頼）されることが最低条件となります。しかし、今日の学校現場での様々な事件や事故を見る限りでは、親の世代も含めて人間関係の危機を感じます。いまや心身の健康づくりや人間関係づくりの教育を、子どもたちの城（学校）で行わなければならない時代なのではないでしょうか。そのためには大人同士が志を持って連携協力し、特に健康の鍵を握る学校医は可能な限り関与すべきだと思います。誠意と思いやりを持って先生方と協働し、大好きな子どもたちを見守り成育していきたいものです。

理想をめざして

学校の主役は子どもたちです。したがって子どもたちの笑顔は、学校教育・学校経営のバロメーターだと思います。私は、学校とは「次世代を担う子どもたちの心身の健全育成の庭」であると同時に、「理想を目指す地域のモデル地区」であると思います。

（後略）